

『世界一流エンジニアの思考法』

- ① 一流エンジニアとの違い
  - 試行錯誤はNG → 仮説立てて検証
  - 理解に時間をかける
    - 基礎の積み上げ → 時間をかける
    - 「理解するとは何か」を理解する
  - 
    メンタルモデルを作る
    - 自分の心の中の「脳内イメージ」
    - 問題解決のプロセスを高速化させる
- ② 米国でのマインドセット
  - 「Be Lazy」
    - 少ない時間で価値を最大化 → 最小の労力で楽する
    - そもそもやることを減らす → 1 つのことに集中
  - 「Fail Fast」 → 「挑戦 → 失敗 → フィードバック → 修正」のサイクル
  - 「結果を出す」から「バリューを出す」へ → 似て非なるもの
- ③ 脳に余裕な情報整理・記憶術
  - アウトカム（成果）を急がない → 中長期だと生産性上がらない
  - マルチタスクはやらない → 生産性が下がるので1つだけに集中
  - 黄金則
    - 脳の負荷を減らす → 「理解 →記憶→ 反復」の好循環を生む
    - 理解 → 時間をかけて基本と構造を理解する
    - 記憶 → 頭の中で整理された状態で記憶する
    - 反復 → いつでも取り出せるよう反復する
- ④ コミュニケーションの極意
  - 
    クイックコール
    - 予定されていないビデオ通話のこと
    - チャットより有効（情報量・双方向性・フィードバック）
  - ディスカッション
    - 互いの意見を交換⇒知識や考えを深める
    - 知らないことは恥じないで進んで聞く
    - その場でフィードバックあると理解コスパが高い
- ⑤ チームビルディング
  - サーバントリーダーシップ
    - リーダーはビジョンと KPI を示す
    - 実際にどう動くかはチームが主体的に考えて意思決定
  - 
    自己組織チーム
    - 信頼してタスクを与える → 仕事が早く生産性が高い
    - いかに導入するか → メンバー各層への実践法
- ⑥ QOLな習慣術
  - 「タイムボックス」制
    - 特定の時間枠を設定して取り組む
    - 「アウトカム」制はNG → キリいいところでは結局止めない
  - 脳の酷使をやめる → 3つのコツ「瞑想・ディスプレイから離れる・睡眠」
  - 掃除
    - 食器洗いや洗濯などのタスクは「完了」状態にする
    - 仕事にもコントロールする感覚が生まれる
- ⑦ AI時代どう生き残るか？
  - 「専門性」こそが強み
    - AIは既存データをもとに学習する
    - 誰もがやったことのないものに取り組む専門家は代替されない
  - 日米の文化の違い
    - 米国はスピード重視ではなく「専門性を高める」蓄積に比重置く
    - 新しい技術出ても日本の批判文化が大きな足かせに